

首都大学東京 法科大学院
平成27年度 2年履修課程

憲法・民法・刑法 試験問題
(平成26年11月1日実施)

試験時間 午前10時30分～午後1時30分

受験に当たっての注意事項

(1) 受験中は、机の右上に、① 2014年度法科大学院全国統一適性試験受験票及び②本学受験票を置いてください。(①と②の画方が必要です。)

机上には、上記受験票、筆記用具、時計及び眼鏡以外の物を置くことはできません。

(2) 筆記用具は、黒インクのボールペン又は万年筆に限ります。机上に置ける筆記用具はこれだけです。これ以外の筆記用具を用いた場合は0点として採点します。また、消しゴム等で消すことのできるインクや2色(又は複数色)のボールペン等、マーカー、修正液及び定規等の使用も認めません(答案の下書きや問題用紙への書き込みも含む。)

(3) 携帯電話又はそれに類する通信機器等は身につけず、必ず電源を切って、鞆等の中に入れてください。それらを時計として用いることはできません。

(4) 耳栓、イヤホン又はそれに類するものの使用は禁止します。

(5) 受験中の飲食は一切禁止します。ペットボトル等を持っている場合には必ず鞆にしまい、机の上等に置くことはしないでください。

(6) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

(7) この問題冊子は表紙を含めて4頁あります。問題冊子を破いたり、ホチキス止めをはずしたりしてはいけません。

(8) 答案用紙の所定の欄に、受験番号及び氏名を必ず記入してください。

なお、所定の欄以外の場所に氏名を記載するなど特定人の答案であることが明らかとなるような行為は一切禁止します。

(9) 答案用紙は、各科目1枚(両面記載)のみ配布しますので、汚損しないよう注意してください。また、解答すべき答案用紙の科目を間違えないように注意してください。

(10) 「法科大学院試験六法」は各試験時間終了時に回収しますので、書き込んだり、頁を折り曲げるなどして汚損しないでください。汚損行為は不正行為とみなします。

(11) 試験室では監督員の指示に従ってください。不正行為があった場合又は監督員の指示に従わなかった場合には、失格となります。

(12) 試験終了時刻までは、試験室から退出することはできません。トイレに行くことも原則として禁じます。緊急の場合や気分が悪くなった場合等には手を挙げてください。

なお、他の受験者の受験の妨げとなる行為が認められた場合には、監督員が、試験時間中であっても試験場からの退出を命ずることがあります。

憲法 問題

Yは、A県内の商店街にある街路樹3本の各支柱に、B政党の政治演説会の告知宣伝のプラカード式ポスター(立看板)を取り付けた。この作業中に、夜警中の警察官に発見され、この立て看板を撤去するように警告を受け制止されたが、そのまま続け完了した。さらに警察官を無視して立ち去ろうとしたので、A県屋外広告物条例4条に違反するとして、現行犯逮捕され、簡易裁判所で罰金1万円の有罪判決を受けた。

Yは控訴することを考えている。その際、どのような違憲の主張ができるか、そしてそれに対してあなた自身はどう考えるか、論ぜよ。なお、条例で刑罰を制定できるかの憲法問題は触れなくてよい。

<参照>

A県屋外広告物条例

(目的)

第1条 この条例は、屋外広告物法(昭和24年法律第189号。以下「法」という。)の規定に基づき、屋外広告物(以下「広告物」という。)及び屋外広告業について必要な規制を行い、もって良好な景観を形成し、若しくは風致を維持し、又は公衆に対する危害を防止することを目的とする。

第4条 次の各号に掲げる物件に広告物を表示し、又は掲出物件を設置してはならない。

.....

三 街路樹、路傍樹、及びその他の支柱

第33条 次の各号のいずれかに該当する者は、10万円以下の罰金に処する。

一 第4条の規定に違反して広告物又は掲出物件を表示し、又は設置した者

.....

民法 問題

Aは、Bに対し、「Aが所有する甲土地を担保にしてどこからでも良いので500万円を借りてきてほしい。」と頼み、その手続をBに任せた。その際、Bから、借入れ等に必要であると言われたので、Bに対し、代理人名と委任事項が白紙の委任状、Aの実印及び印鑑証明書（以下「委任状等」という。）を渡し、登記識別情報（登記をするのに必要なパスワードのようなもの。）を提供した。ところで、当時、Bは、消費者金融に500万円の借金があり、その返済ができずに困っていた。

上記の事実を前提にして、次の設問(1)、(2)について、理由を付して解答せよ。なお、設問(1)と設問(2)とはそれぞれ独立した問いである。

【設問(1)】

Bは、Aから預かった委任状等を使用し、Aの代理人として、Cから甲土地を担保にして500万円を借り入れたが、この500万円をAに渡さず、自分の借金の返済に使ってしまった。Cは、約束の期限にAに対して500万円の返済を求めたが、Bから500万円を受け取っていないAは、返済を拒否した。

Aは、Cからの返済請求を拒否できるか。

【設問(2)】

Bは、Aから委任状等を預かり登記識別情報の提供を受けたのをよいことに、BがAから甲土地を買ったとする売買契約書を偽造した上、甲土地についてAからBへの所有権移転の登記をしてしまった。そして、Bは、甲土地に抵当権を設定してCから500万円を借り、その金で自分の借金を返済した。これを知ったAは、Cに対し、甲土地に設定されたCの抵当権は無効であると主張したが、Cは、登記上はBが所有者となっているとして争った。Aの主張は認められるか。

刑法 問題

甲(男性 20 歳)は、甲のアパートで同棲していた A(女性 20 歳)が他の男性と付き合いしているのではないかと疑って激怒し、顔面や腹部を殴打する暴行を加えたため、Aは玄関から逃げだそうとしたが、甲は、さらに Aの頭髪を掴んでドアに打ち付ける暴行を加えた。Aは裸足でアパートから逃げ出し、「助けて、助けて。」と叫びながら、全速力で約 150メートルほど走ったが、そのまま路上で倒れて意識を失い、通行人の通報により搬送された病院で、1時間後に死亡した。

Aには先天性な心臓疾患があり、中学生の頃から走ることは控えるように医師から言われており、そのことは甲も知っていた。解剖の結果、甲のAに対する暴行による傷害は加療1週間ほどのものであったが、Aが走ったことと、先天性な心臓疾患とが相まって急性循環不全に陥って死亡したことが判明した。

甲の罪責について述べよ。